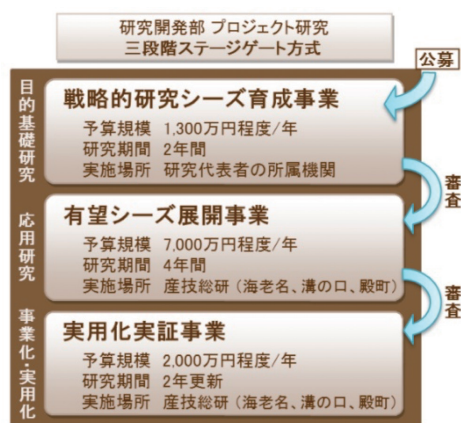


神奈川県立産業技術総合研究所 (KISTEC) と工学研究院の共同体制

工学研究院 機能の創生部門 教授 福田 淳二

KISTEC の助成金や人的ネットワークの仕組みをうまく利用すると、地域向けの大型助成金に応募したり、事業化への強力なサポートを受けたりすることができます。ここでは、自身の経験から KISTEC の研究サポート体制や本学との関係について紹介します。誤解や偏見も含むと思いますが、対象分野が幅広いため工学研究院のみなさまの研究の発展に役立つと思います。

いきなり身も蓋もない話ですが、KISTEC 研究プロジェクトの一番の魅力は助成金（右図）です。最長 8 年間の助成が受けられ、しかもそのうち 4 年間は年間 7,000 万円という大きな予算が提供されます。また、KISTEC は神奈川県の機関であるため、申請は神奈川県内またはその近傍にある大学の研究者に限られます。KISTEC の目的は産学公連携であるため応用研究という制約はありますが、この予算規模で競争相手が限られているのは大きな特徴と言えます。また、KISTEC と本学の関係は、近年かなり深まっています。2017 年に神奈川県と本学は包括連携協定を結び、同じ年に KISTEC が神奈川科学技術アカデミー KAST を母体に設立されました。そして現在の KISTEC 理事長は、本学の元学長である鈴木邦雄先生です。さらに昨年には、KISTEC と本学でクロスポイントメント協定が結ばれ、KISTEC 研究員が本学助教として勤務しています。余談ですが、神奈川県議会では、「なぜ KISTEC の予算が県内に本拠地のない東大や慶応大、早稲田大に提供されているのか？」と意見が出たと聞いています。県内に本拠地を構える本学がこの助成金をもっと活用すべきであり、「グローバルに」活躍・貢献するのが良いと思います。



私たちの研究プロジェクトは、1 段階目の戦略的研究シーズ育成事業の 2 年間を終え、今年度から有望シーズ展開事業に進みました。また、KISTEC を代表機関として、文部科学省の地域向け事業である地域イノベーション・エコシステム事業に採択されています。有望シーズ展開事業に進むと県の研究施設が使用できます。私たちのプロジェクトでは、神奈川県が川崎市殿町に設置したライフイノベーションセンターの一面を使用して研究を進めています。この殿町地区には、国立医薬品食品衛生研究所や実験動物中央研究所、ライフサイエンス関連の企業が集まっており、これらの機関との共同研究が実施しやすくなっています。さらに、医療応用を目指す研究では、国の許認可が事業化を考える上で必要になりますが、これらの専門家を KISTEC 主導で招集し強力なチームを結成できるのがもう一つの大きな利点です。

医療応用の研究だけでなく、材料、ロボット、通信などが KISTEC 研究プロジェクトとして採択されています。神奈川県の政策との関連もありますが、実用化を指向した研究であれば幅広く対象となるようです。ぜひ、「KISTEC」「シーズ育成事業」で検索することから始めてもらえたらと思います。

2019-2020
Highlights

プロジェクト研究